

令和6年度 石見まちづくりセンターの主な取組

事業名

通年事業を通して ～人材育成～

P

●事業実施に至った背景、目的

- ・気軽に参加できる通年事業を通して地域住民同士の交流をはかり、楽しみながら地域貢献や生涯学習、ボランティア活動に参加しようと思う人を増やすことを目的とした事業。調理事業（フランス料理教室、魚の料理教室、パン教室）は、若い世代の参加も多いため、地域学校協働活動への新規ボランティア獲得や自主サークルを立ち上げ地域貢献に繋がる活動の展開も狙った。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・浜田市水産業振興協会より、バトウ・イカの提供を受け、講師に相談
- ・地域講師の長野操子氏、久保利京子氏、岡本裕明氏に依頼

D

●事業の概要

- ・参加者同士の交流も大切にしながら、興味のある分野をリサーチし、事業後にはまだっ子共育推進事業の話を全体に向けて周知した。更に参加頻度の高い方には、サークルの立ち上げを提案した。
- ① 魚食推進事業の一環で浜田市水産振興協会に魚の提供をしてもらい、郷土料理や家庭料理を作り食べて楽しんで交流し後半で、はまだっ子共育推進事業について説明をした（1回）
- ② パン作りをしながら交流し、作って食べる楽しむ事業の後半で共育の説明をした（3回）
- ③ 家庭でできるフランス料理、地産地消を目指し、楽しく作って食べる事業の終了後、地域に貢献できる取り組みを目標にサークルの立ち上げについて説明をした。（1回）

C

●事業実施後の振り返り

事業の参加者には、重荷に感じないようにボランティア活動（共育）の話をしたが、興味を示して下さった方を実際に学校ボランティアに繋ぐことが出来た。（3名）

楽しみながら活動を行う事で、参加者同士の交流も深まりサークルを立ち上げることに繋がった。

両者共々、その後も続けて活躍している。

A

●令和7年度以降の方向性

これまで通り生涯学習を通して、地域に貢献している人材をセンターは支援し続けるが、絡めて地域活動やはまだっ子共育推進事業を周知し、生涯学習や新規のボランティアを獲得できるよう努める。更に地域課題解決に向けた事業の企画とそれに参加した方とコミュニケーションをとる中で、好きなことや得意なことを知り、学校や地域で活躍できる場に繋がられるようにする。

